

注 意 報

岡 病 防 第 7 号
平成20年 8 月 1 日

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生注意報第 1 号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成20年度病害虫発生注意報第 1 号

平成20年 8 月 1 日
岡 山 県

病害虫名 **斑点米カメムシ類** (アカスジカスミカメ等)

1. 発生が予想される地域

県下全域

特に、あきたこまち及びコシヒカリ栽培地帯、山寄りの水田、山間棚田、
イネ科雑草地・休耕田・イタリアンライグラス等牧草地の周辺の水田

2. 発生の蔓延が予想される時期

水稻の出穂期以降

3. 予想される発生量

多

4. 注意報発表の根拠

- (1) 予察灯における 7 月 1 半旬から 7 月 5 半旬までのアカスジカスミカメの誘殺数は、赤磐市では266頭で平成(147.2頭)より多く、津山市でも537頭で平成(293.4頭)より多かった(表1)。
- (2) 7月28・29日の県北部巡回調査で、水田周辺のイネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り/ほ場)を行った結果、斑点米の原因となるアカスジカスミカメのほ場当たりのすくい取り虫数は210.9頭であり、過去5年間の平均値(67.4頭)に比べて多かった(表2)。
- (3) 7月25日の季節予報によると、向こう1か月の気温は高く降水量は少ないと予想されており、本虫の加害や増殖に好適な条件である。

5. 防除対策

- (1) 薬剤による防除は表3による。使用に当たっては農薬使用基準を厳守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全・適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。水田に農薬を散布した後は、少なくとも7日間は落水・か

け流しをしないようにする。

- (2) 斑点米カメムシ類にとってイネ科植物の穂は餌であり、産卵場所でもあるため、水田周辺のイネ科植物は除去する。ただし、穂の付いたイネ科植物を水稻の出穂2週間前から3週間後の間に除去すると、斑点米カメムシ類をかえって水田に追いやることになるので避ける。
- (3) 休耕田でイネ科植物が繁茂している場合は、休耕田のカメムシ類を対象とした薬剤防除を行うこともできる(表3)。
- (4) 斑点米カメムシ類の防除は2回必要とされており、主要発生種がアカスジカスミカメなどのカスミカメムシ類である場合は以下の防除時期となる。

1 回目の防除：穂揃期

2 回目の防除：1 回目の防除から7日後

注) ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシなどが主要発生種である場合、1 回目の防除は穂揃期の3～7日後(乳熟初期)、2 回目の防除は1 回目の防除から7日後である。

主要発生種がいずれの場合も、その後の発生が多ければ、3 回目の防除を2 回目の防除から7日後に行う。なお、穂揃期は圃場全体の80～90%が出穂した状態である。

6. 防除上の参考事項

- (1) 平成10年以降、主要品種別の2等以下格付け理由の内訳をみると、斑点米カメムシ類を原因とする割合が極早生種のみきたこまち、早生種のコシヒカリで高いため、これらの品種の栽培地帯では防除に万全を期する必要がある。
- (2) 極早生品種、早生品種栽培地帯では出穂期、穂揃期等が斑点米カメムシ類の発生ピークと一致し、被害が出やすい。
- (3) 周辺より出穂の早い水田では集中的に飛来してくる傾向があるので防除の徹底を図る。
- (4) 斑点米カメムシ類は、山間棚田、山寄りの水田、イネ科雑草繁茂地・休耕田・イタリアンライグラス等イネ科牧草地の周辺の水田で発生が多く、特にアカスジカスミカメはイタリアンライグラス等イネ科牧草地で多い。
- (5) 出穂直後から20日後までを加害時期とするアカスジカスミカメは、淡緑色を帯びており、体長が5mm程度と小さく肉眼で確認しにくいいため、本田での発生の把握には捕虫網によるすくい取り調査が必要である。
- (6) 出穂直後から収穫期までの全期間を加害時期とするホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、シラホシカメムシは、前者の2種が体長10～17mm程度と大きいこと、後者の2種が体長5～7mm程度と小さいものの灰褐色～黒色で見分けやすいことから、本田での発生が肉眼で確認できる。
- (7) 斑点米カメムシ類の発生は、本田の畦畔近く(本田の周縁部)で多く、中央部で少ないとされており、発生密度に偏りがある。よって、すくい取り調査や肉眼による観察は本田の畦畔近くで行う。

表1 予察灯におけるアカスジカスミカメの誘殺数(頭)

	赤磐市		津山市	
	H20	平年値	H20	平年値
7月1半旬	80	18.5	174	62.9
2半旬	44	24.0	105	60.0
3半旬	51	38.4	19	62.6
4半旬	31	36.0	43	49.1
5半旬	60	30.3	196	58.8
計	266	147.2	537	293.4

表2 イネ科牧草でのすくい取り(20回振)によるアカスジカスミカメの虫数

H20	平年値
210.9	67.4※

※平成13、15~17及び19年の5年間の平均値

表3 斑点米カメムシ類の防除に使用する主な薬剤(平成20年7月30日現在)

薬剤名	剤型	農薬使用基準		
		濃度・使用量	使用時期 (収穫前日数)	総使用回数 (当該成分)
トレボン*	DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内
	水	3~4kg/10a(休耕田)	—	
		2000倍	収穫21日前まで	
		2000倍	—	
乳, MC	2000倍(休耕田)	—	3回以内	
	2000倍	—		
EW	1000倍	収穫21日前まで	3回以内	
	1000倍(休耕田)	—		
MR. ジョーカー	DL	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内
	EW	3~4kg/10a(休耕田)	—	
		2000倍	収穫14日前まで	
スタークル・アルバリン	DL, 粒 (顆粒) 溶	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内 (本田)
		2000倍		
ダントツ	粒	3~4kg/10a	収穫7日前まで	3回以内 (本田)
		3~4kg/10a(休耕田)		
	溶	4000倍	収穫7日前まで	3回以内(本田)
		4000倍(休耕田)	—	4回以内
70アブル	5000倍	収穫14日前まで	3回以内(本田)	
ベストガード	DL, 粒	4kg/10a	収穫14日前まで	4回以内
アドマイヤー	DL	4kg/10a	収穫21日前まで	2回以内(本田)
		4kg/10a(休耕田)	—	2回以内
キラップ	DL	3~4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内
	粒	3kg/10a		
	70アブル	1000~2000倍		
チェス	水	2000倍	収穫14日前まで	2回以内(本田)

※の薬剤は、水産動物に対する危害が発生するおそれのある地域では使用しない。